

たかけい学報

The Bulletin of Takasaki City University of Economics

高経大生の
キャンパスライフを
サポートする情報誌



12-13

特別講義

「世界と日本の未来を考える」開講

02-05 学生サポートガイド2022

06-07 卒業生に聞く!

08-09 研究室紹介

10-11 学生クローズアップ / 沈先生の留学記

14 鶴鷹祭 & 三扇祭 結果報告

15-16 たかけい INFORMATION

no.

106

学生サポートガイド2022

一人ひとりが充実した学生生活を送れるよう、本学は個々の学生に寄り添ったきめ細やかなサポートに取り組んでいます。学修、健康面、経済面、就職に関する様々な制度や施設が充実していますので、ぜひ活用してください。

Active Lab

アクティブ・ラボ

学修に関することは “学び”のプロに相談

アクティブ・ラボでは、教員による「学び」の支援を行っています。レポートや論文の書き方、パソコンの操作方法など、学修に関する様々な相談に応じています。授業や勉強方法などについて、誰に相談したらいいのかわからないと感じたときは、気軽にアクティブ・ラボを活用してください。



レポートの
書き方について
アドバイスがほしい

授業に
ついていけるか
心配がある

履修計画の
立て方が
わからない

文章が
うまく
書けない

パソコンの
操作方法が
わからない

アクティブ・ラボで相談しよう！

サポートメニュー

- 講義の受け方、ノートの取り方アドバイス
- ゼミ選択・志望理由書のアドバイス
- 大学生生活の困りごと相談
- レポート・論文作成指導

利用者の声



授業課題で悩み、アクティブ・ラボを利用することになりました。授業課題で、文章作成や要約の課題が出るのですが、よく行き詰まってしまう。うまく言語化できずにいた表現や論理構成について指導してもらいました。また、それだけではなく大学生活や人生に関して色々話ことができ、学びのモチベーションになっています。気軽に話すことができ、多くの助言がもらえるので、非常に助かっています。
(経済学部1年 関根悠斗)



利用に際して

場所：研究棟1階
時間：月～金 13時から17時(講義期間中のみ)
利用方法：予約制/アクティブ・ラボTeamsから予約できます。
(チームコード：senpewu)



Student Support Room

学生サポートルーム

心の悩みや体の 不調に関する相談窓口



学生サポートルームでは、学生が自分らしい学生生活を送るための支援をしています。心の不安や人間関係に関する悩みなどについて、公認心理師や臨床心理士が、専門的な視点からサポートをしています。また、障がいなどの理由により修学の支援を必要とする学生の相談に応じています。

友人関係で
悩んでいる

何もする気が
ならない

大学に行くのが
つらい

講義などの
座席の位置を
配慮してほしい

学生サポートルームに相談を！

サポートメニュー

- 学生相談
- 障がい学生支援
- ハラスメント相談

※保健室でも同様の相談を受け付けています。

利用に際して

場所：7号館2階
時間：月～金 9時から17時
利用方法：直接お越しいただくか、
下記にご連絡ください。
Tel：027-344-7502
メール：supportroom@tcue.ac.jp

利用者の声



気兼ねなく話せる友達はいまし、親子関係も良好ですが、友だちに負担をかけたくないときや親を心配させたくないとき、時間に追われ心の余裕を失いそうになったときに利用しています。話すことで心の整理ができ、聴いてもらうことでストレスと上手く付き合えるようになりました。秘密厳守なので安心して話せます。サポートルームの方もカウンセラーの方々もとても優しく利用しやすいです。心のケアのために、皆さんにも利用してほしいです。

Student Volunteer Center
学生ボランティア活動支援室

ボランティア情報の提供や活動支援の場



学生ボランティア活動支援室では、ボランティアを希望する学生への情報提供やマッチング、ボランティア活動に関する相談に応じています。地域の課題解決に貢献したい、色々な人たちと出会いたい、と感じたら、学生ボランティア活動支援室を利用してみてください。

何かボランティア活動をしたい

地域の課題を知りたい

大学内外の人たちと出会いたい

学生生活を充実させたい

学生ボランティア活動支援室を利用しよう!

サポートメニュー

- ボランティア活動に関する情報収集・提供・発信
- ボランティア活動に関する研修の企画・開催
- 学生・学生団体の活動に対する支援
- 学外の関係団体との協力連携

利用に際して

場所：事務棟1階
 時間：月～金 10時から17時

利用者の声

私は、学生ボランティア活動支援室や農家などと連携し、農業支援ボランティアを企画・運営しています。この活動は、担い手不足の農家とボランティアをしたい学生のマッチングにより、お互いがWIN-WINの関係になることを目指しています。ここでの体験や出会いは、普通の大学生活では得ることができない貴重な経験です。

Student Affairs Section
学生支援チーム

経済的な負担を軽減するための支援

経済的な理由で学業の継続が困難な学生のために国により創設された「修学支援制度」では、授業料・入学料の免除・減額と給付型奨学金の支給を行っています。くわしくは、Webサイトを確認ください。

経済的な不安がある

給付型の奨学金を受けたい

修学支援制度をチェックしてみよう!

制度の概要

	第1区分	第2区分	第3区分
自宅通学	29,200円	19,500円	9,800円
自宅外通学	66,700円	44,500円	22,300円

※詳細は、修学支援制度ホームページへ



利用に際して

場所：事務棟1階
 時間：月～金 8時45分から17時30分

※奨学金や奨励費の詳細は、大学ホームページへ



Center for Job Placement
キャリア支援センター

多様なプログラムで就活をトータルサポート



キャリア支援センターでは、今後の生き方や働き方を含めたキャリアデザインを設計する力を養うための様々なプログラムを提供しています。職業に関すること、就職活動に関することなど、希望する未来にぐっと近づくための支援を展開しています。専門の相談員が個別相談の対応もしていますので、ぜひ活用してください。

なりたい自分になるために何をしたらよいかわからない

就活を何から始めたらよいかわからない

面接やグループディスカッションの対策をしたい

OB・OG訪問をどうすればよいかわからない

キャリア支援センターを利用しよう!

サポートメニュー

- ガイダンス・セミナー
- 各種対策講座
- 就職活動に関する相談
- OB・OGとの交流会

利用に際して

場所：事務棟1階
 時間：月～金 8時45分から17時30分



利用者の声

キャリア支援センターは敷居が高いイメージでしたが、行ってみるととても気軽に行きやすい場所だというのが分かりました。就活相談にも親身に寄り添ってくれ、面接練習や書類の添削も行ってもらえるので、客観的に自分を見つめることができ、今後社会に出て仕事をしていく自信もつきました。



コロナ禍の大学の主な動き

2020年1月に発生した新型コロナウイルス感染症。本学では、学生・教職員の命と健康を守り、学びを止めないための様々な取組を行ってきました。

2020年

- 1月30日 新型コロナに関する注意喚起第1報(保健室通信)
- 3月25日 学位記授与式を学生のみ限定して開催
- 3月26日 入学式、前期授業開始日の延期を決定
- 4月8日 教職員による遠隔授業実施プロジェクトチームを設置
- 5月7日 遠隔授業による前期授業を開始
- 5月27日 コロナ禍学生緊急支援特別基金設置
- 6月3日 生活支援物資の配布
- 9月21日 遠隔授業による後期授業を開始
- 10月12日 一部演習や実習における対面授業の再開
- 10月21日 後援会による「学生応援チケット(生協利用券)」の配布

2021年

- 3月25日 学位記授与式を学生のみ限定して開催
- 3月30日 健康診断を完全予約制に移行し実施
- 3月30日 新2年生ガイダンスで学長がメッセージ
- 4月6日 入学式を学生のみ限定して開催
- 4月14日 対面授業を中心に、大人数講義などの一部に遠隔を取り入れ前期授業を開始
- 7月12日 「食」に対する支援実施
- 9月21日 対面授業を中心に、大人数講義などの一部に遠隔を取り入れ後期授業を開始
- 9月21日 学内にて学生のワクチン接種実施

卒業生に聞く!



Q1. 高崎市の率直な印象 Q2. 高崎周辺おすすめグルメ Q3. 大学生活一番の思い出 Q4. 後輩へのメッセージ



地域政策学部
地域づくり学科
堂場あすか

私は高崎経済大学で4年間を過ごし、たくさんの良い思い出と学びを得ました。講義や部活動、ゼミナールではそれぞれの場で共に学べる友人を作ることができ、多くの考え方を知ることが出来ました。このことが私を良い方向へと変えてくれたのだと思っています。

大学生活では、見聞を広げ新しいことを学ぶ楽しさを実感出来ました。地域政策学部に入學した当初は、地域の課題を解決するための視点や方法の獲得を目指すということで、政策や社会問題に関わる講義が殆どであるというイメージを持っていました。しかし実際には、歴史学や心理学、食文化から保険制度まで、非常に幅広い分野の講義が行われていることを知りました。当初期待していた以上に視野を広げることができそうな講義の幅広さに、非常に感心したのを覚えています。様々な講義を受けてみて、自身の関心がどのような分野にあるのかを考えることは後の就職活動でも役立ちました。また日々の講義での積み重ねが、きちんと結果として表れてくれたことも嬉しかった経験です。

入学以前から関心の高かった歴史学については、特に力を入れて学ぶことができた実感しています。ゼミナールでは上野国の代表的な産業であった養蚕について研究しました。地域で積み重ねられてきた歴史について、知ることの楽しさを感じつつ学んでいくことが出来ました。協力してくださった仲間と、ご指導いただいた教授には大変感謝しております。

私の大学での4年間は、常に周囲の人々に支えられていたからこそものだと思っています。そして、ここでいただいた友人たちからの優しさは、この大学でしか得ることのできないものだったのだと思います。私はこれらの経験から、誰かのために尽くせる仕事に従事したいと強く感じ、それが叶う業界への内定をいただくことが出来ました。今後も大学での4年間で得た経験や思い出を糧として、日々の努力を続けていきたいです。



地域政策学部
柏木 勇樹
茨城県立水戸第一
高等学校出身

- A1...周りを見渡すと山ばかり。とても綺麗!
- A2...鶏白湯泡ramenたまき(ラーメン)。
- A3...大学から始めたスノーボードに没頭したこと。
- A4...様々なことに積極的に挑戦して、充実した大学生活を過ごしてください!



経済学部
松本 拓哉
群馬県立高崎東
高等学校出身

- A1...都心に近い、風が強い。
- A2...チンズバーガーマーケット、いち大(ラーメン)。
- A3...部活、アルバイト、ゼミナールを通して卒業後も会いたいと思えるような友人が出来たこと。
- A4...本当に4年間はあっという間なので何事にも全力で取り組んでください。



地域政策学部
武井 姫乃
平方学園明和県央
高等学校出身

- A1...ご飯、特に麺類がおいしい。
- A2...はらっぱ(パスタ)。
- A3...合気道部での合宿。稽古は大変だったけど、部員との仲を深められて良い思い出になりました!
- A4...「どこに行くか」ではなく「そこで何をやるか」が大事。学業もプライベートも、たくさん充実させてください!



地域政策学部
石原 幹太
茨城県立土浦第二
高等学校出身

- A1...駅周りは都会感もあり、大学周りは地元感のあるのどかな住宅街で住みやすい街。
- A2...伝次平やいち大といった二郎系ラーメンのお店が多いので腹ペコ大学生にオススメです。
- A3...三層祭でサークルの模擬店で販売したタピオカが大盛況だったこと。
- A4...学業も遊びも楽しめる魅力的な環境でキャンパスライフを謳歌してください!



経済学部
後閑 菜月
群馬県立高崎北
高等学校出身

- A1...今までもこれからもずっと大好きな街!暮らしやすい!
- A2...リングロード(パスタ)。
- A3...2年生の時にに行った体育会のリーダーズキャンプ。
- A4...4年間は本当にあっという間なので後悔がないように思いっきり楽しんでください!



地域政策学部
武田 温心
山形県立山形西
高等学校出身

- A1...雷と空風義理人情。
- A2...はらっぱ(パスタ)。
- A3...友達と四国に旅行したこと。
- A4...人との縁を大切に、学生生活を思いっきり楽しんでください!



地域政策学部
千田 紘平
北海道苫小牧東
高等学校出身

- A1...都会過ぎず、田舎過ぎず、過ごしやすい街。
- A2...環状線にあるバターテ!パスタもピザも旨い!
- A3...水泳部に所属し、4年間部活をやり通したこと。
- A4...様々な地方から来る人々との触れ合いを通じ、有意義な学生生活を!



地域政策学部
清水 雛
群馬県立高崎北
高等学校出身

- A1...びっくりするほど風が強い。
- A2...はらっぱ(パスタ)。
- A3...あすなろ学生会での活動。
- A4...4年間は本当に一瞬なので、やりたいと思うことがあったらすぐに行動しましょう!



経済学部
伊波 美弥
栃木県立足利女子
高等学校出身

- A1...車があれば困らない。
- A2...くろ松(ラーメン)。
- A3...フィールドワークや留学、好きな人達に出逢えたこと。
- A4...今しかできないことを全力で楽しんでほしいです。



Sato Atsuko
経済学部 国際学科 准教授
佐藤 敦子

研究分野：
異文化マネジメント論、国際ビジネス研究
学位：専門職学位(ビジネス) (早稲田大学)
担当授業(学部)：
国際マーケティング、異文化経営論、
外書講読Ⅰ・Ⅱ、基礎演習、演習Ⅰ・Ⅱ、
Introductory Management

プロフィール

出身は宮城県です。父は宮城県人ですが、母が青森県出身のため、宮城弁と青森弁のネイティブです。小中高と仙台で過ごし、中高の親友が筑波大学を目指すというので、その存在を知り、当時、設立されたばかりの国際関係学類（現在は国際総合学類）に進学しました。私の学部時代と言えば、体育会ゴルフ部の活動と、ほぼ全ての科目を英語で学ぶ大学の授業の予習復習に明け暮れました。卒業後の進路は院進か就職か迷いつつ、外資系証券会社に就職しました。帰国子女でもないのに英語で仕事をする環境に身を置き、初めはとても苦労しましたが、慣れると英語環境の方が楽でした。日本語はとても難しいです。その後、学生時代に棚上げにした大学院進学を決意し、早稲田大学の修士課程で出会った研究テーマを深掘りしたくて博士課程まで進み、研究の道に入りました。

研究テーマ

研究テーマは、国際経営学における異文化研究の視座から、芸術文化団体の経営を考えることです。最近では異文化経営とESG投資の関係性についても注目しています。担当科目は国際マーケティング論、異文化経営論、Introductory Managementです。

ゼミの活動内容

コロナ禍以前は海外フィールドワークの実施、学外プレゼンテーション大会へ参加していました。海外渡航時の出入国の制限が緩和された暁には、海外フィールドワークの再開を考えています。コロナ禍での昨年度と今年度のゼミ活動としては、2年次の基礎演習、3年次の演習Ⅰにおいて『絶望を希望に変える経済学』（バナジー、デュフロ著）、『グレートリセット：ダボス会議で語られるアフターコロナの世界』（シュワブ、マルレ著）といった図書を輪読し、様々な社会問題について大学での学びと結びつけながら活発な議論を行っています。4年次には各自が興味のある研究テーマを決めて卒業論文に取り組みます。2021年春に国際学科の最初の卒業生を送り出しましたが、私のゼミ生はIT系、通信系企業や公務員といった進路でした。学生の皆さん、自分の興味・関心のあることに好きなだけ時間を費やせるのは学生時代の特権です。手取り早くネット上の情報を読み流して理解した気にならず「本当にそうなの？」と自分で調べてみる、関心ある分野の本をじっくり読む、自分の興味ある事柄について深掘りするということを是非やってほしいです。

3度の飯より好きなことを研究テーマに



研究テーマを選んだきっかけ

早稲田の大学院で異文化経営という研究領域を知りました。アメリカの証券会社では、様々な国籍や経歴を有する多国籍メンバーで構成された部署のマネジメントを行い、とても大変でした。私が経験した様々な難題が、異文化経営論で既に研究されていることを知り、目から鱗が落ちる思いがしました。それが自分の研究の軸を異文化研究に決めたいきっかけです。国際ビジネスにおける異文化の影響について、最近はかなり意識されるようになってきましたが、実務の現場ではアカデミックな研究成果が必ずしも認識されていないこともあり、双方にとって勿体ないと感じています。大学院時代の指導教官から「3度の飯より好きなことを研究対象にしないと研究活動は続かない」とアドバイスされ、大好きなオペラや歌舞伎に着目しました。時代と社会の変化に伴い、今やオペラは芸術における絶滅危惧種と言われています。オペラ上演に取組む芸術文化団体のサステナビリティについて、経営学の視点から注目しています。大学で学ぶということは、教科書の知識を覚えるだけではなく、自分の興味があること、好きなことを好きなだけ掘り下げることだと思います。



Yamamoto Masaki
地域政策学部 地域政策学科 教授
山本 匡毅

研究分野：
経済地理学、機械産業論、中小企業論
学位：博士(経済学) (中央大学)
担当授業(学部)：
中小企業論、産業政策論、産業立地論、
初年次ゼミ、グループ研究Ⅱ、基礎演習

プロフィール

私は神奈川県横浜市の出身です。生まれてから就職した30歳まで、横浜市に住んでいました。神奈川大学法学部、中央大学経済学研究科で経済地理学を学びました。大学院終了後に栃木県の私立大学で非常勤講師をした後、兵庫県、福岡県、東京都の行政系シンクタンクで研究員として勤務し、行政向けの情報提供をしてきました。さらに山形大学人文社会学部に4年間、相模女子大学人間社会学部に4年間、教員として勤務し、主に地域連携の科目を担当しました。
趣味は旅行、鉄道です。今はコロナ禍で遠出が出来ませんが、時間があれば、古地図(今昔マップ)を見ながら自宅の近所を散策したりしています。鉄道は幼稚園の頃から好きで、今も通勤で乗る電車が楽しみです。

研究テーマ

私の研究テーマは、「産業の地域構造と機械産業の立地」です。地域構造とは、地域経済がどのように成り立っているのかというもので、特に機械産業という視点から見ています。機械産業の中でも特に航空機産業の研究をしており、航空機産業で使う部品がどこで製造され、飛行機に組み立てられていくのか(立地)、サプライチェーン(供給連鎖)の観点から考えています。
担当科目は、中小企業論、産業政策論、産業立地論です。いずれの授業も産業に関わっているのですが、学生にはイメージしにくい領域です。そこで受講生が具体的にイメージできるように、中小企業や産業の現地調査の成果を踏まえた現場の話や、生産現場の動画を交えながら講義を展開しています。

研究テーマを選んだきっかけ

経済産業省系のシンクタンクに勤める中で、上司から与えられた研究テーマの一つが航空機産業でした。この偶然の出会いが、後に私の研究テーマを航空機産業の立地に変える契機になりました。当時、経済学や経営学で航空機産業を体系的に研究している人がほとんどいなかったことも魅力的でした。
当初は与えられたテーマでしたが、元々乗り物が好きだったこともあり、航空機産業の研究にのめり込んでいきます。文系出身ではありますが、航空機の構造や加工技術も分かる範囲で勉強しました。全国の航空機部品を製造する企業を訪問し、航空機産業の実態調査から産業立地のメカニズムを研究する点に面白さを感じています。

社会の当たり前前に疑問を持つ



ゼミの活動内容

当ゼミは2021年度後期から開講されました。メンバーは2年生12人で、研究テーマは「地域の産業振興と中小企業」としています。現在はテキストの輪読を行い、産業振興や中小企業の理解を深めています。また中小企業経営者を招聘し、中小企業の連携や経営戦略についてお話を聞くとともに、自治体の産業振興セッションや中小企業の現地調査も行う予定です。さらにゼミ生の有志3人で高崎信用金庫主催のたかしんビジネスプラン・コンテスト2021に応募し、最優秀賞を受賞することができました。
3年生から卒業研究に取り組むとともに、サブゼミでは山形県で実施されるビジネスチャレンジコンテストへ応募する予定です。これは産業振興を学ぶゼミ生が地域のビジネスへの理解を深めることを目的としています。ゼミ1期生は2年後に卒業しますが、ゼミの学びを活かして、高崎市や県内外で公務員、金融機関、企業等で地域創生に貢献できるようになってほしいと思います。



陸上競技部

箱根駅伝予選会・関東インカレ出場!

60年以上の歴史をもつ陸上競技部

陸上競技部の創部は今から約60年前の1961年になります。当時の陸上部は愛好会として活動していました。後に、当時の体育会であった自治会活動に申請し、正式な部として活動することになりました。同時に関東学生陸上競技連盟に加盟し、北関東国立4大学陸上競技大会へ唯一の公立大学として参加が許されました。

1963年には北関東5大学陸上競技大会に参加し、後の大会で高崎経済大学が大会を主催することによって、ほかの4大学に受け入れていただきました。また、国公立27大学(当時は22大学)陸上競技大会に1998年に連盟から承認を受け、正式に参加することになりました。

現在では、あたりまえのように参加できている競技会も、こうした先輩方のご尽力のおかげと考えております。(参照:『高崎経済大学陸上競技部の歴史と活動』『高崎陸上80年草創期から現在へ』)

陸上競技部の活躍

現在、陸上競技部は監督を含め、総勢54名で活動しています。短距離、中距離、跳躍、投擲ブロックでは、関東インカレの出場を初め、目覚ましい活躍を見せています。北関東5大学で毎年1名選出される「MVP」には、なんと2020年、2021年の2年連続で、高崎経済大学の陸上部員が選出されました。その他、リレーや個人で歴代記録を更新する選手や大学に入って自己ベストを更新する選手など多くの部員が一所懸命に取り組んでいます。

また、長距離ブロックの大きな目標でもある「箱根駅伝予選会」には、2021年10月現在で11年連続出場になりました。箱根駅伝予選会は、どの大学も参加できるわけではなく、出場のためには最低10人が標準記録を突破する必要があります。2020年は、新型コロナウイルスの影響で思うように練習ができない中、チームベストを打ち立てることができました。2021年は、怪我人等の理由から参加自体が危ぶまれましたが、高崎市陸上競技協会のご厚意のもと記録会を開催いただき、多くの支援のおかげで無事出場を果たすことができました。実際に走るの、選ばれた十数人ですが、そこには多くの人が関わっています。「感謝を走り」を胸に、これからも部員一同精進してまいります。



新型コロナウイルスを経て

新型コロナウイルスが蔓延し、あたりまえが通用しなくなって私たちは、改めて大切なものに気づきました。一つは、「地域とのつながり」です。高崎経済大学陸上競技部は、毎年地域との交流も兼ねて競技会を開催しています。そこは、日頃の審判活動の経験を発揮する場であると同時に、地域の方々や、中学・高校の先生とコミュニケーションを取る貴重な場でもあります。しかし2021年度は、感染症拡大の影響から、残念ながら開催直前で中止となりました。今回は中止となってしまいましたが、今後は今まで以上に審判活動や、小学生を対象とした陸上教室のお手伝いといった機会を、一層大切に、次回大会開催に向けて準備していく所存です。

もう一つは、「部員同士のつながり」です。感染症対策の必要から練習に全体が集まることがままならない時期もありました。箱根駅伝予選会の応援も本来、部全体で臨むものですが、ここ数年は叶わずにいます。部の団結力は、練習等の雰囲気と大きく関係します。このような時だからこそ、練習での声掛けやアドバイスができる環境をつくり、部員同士のつながりを大切にしていきたいと思えます。

これからについて

新型コロナウイルスの流行を経験し、改めてあたりまえの大切さを感じました。だからこそ、日々の練習や試合、審判活動などを大切にしたいと思います。2020年以降に入部した部員は、感染症の影響で合宿や幹部交代式など、これまで続けてきたものを体験することができませんでした。しかし、これを「新たな挑戦」の機会として捉え、より良い陸上競技部にしていきたいと考えています。結びに、私たちが充実した活動を行っているのは、大学関係者様をはじめ、群馬県の陸上関係者様、地域の方々、陸上競技部OB・OGの皆様のおかげです。どんなことにも感謝を忘れず、部員一同頑張っていますので、応援のほどよろしくお願いします。

陸上競技部主将 経済学部経営学科2年 細山祐司

留学体験記 番外編

沈先生の留学記

留学先
→ 早稲田大学
大学院



経済学部経営学科
講師 沈 律
2011年(韓国)東国大学法学院
卒業、2014年 早稲田大学大学院
社会科学部修士課程修了、
2020年 早稲田大学大学院法学
研究科博士後期課程修了

留学中の出会いから研究者の道へ

日本に留学しようと思った理由は?

大学の卒業論文のテーマを選んでいたときに、韓国では、商法の改正案が公開されていました。当時の商法改正案では、新しい会社形態として「有限責任会社」制度の導入が予定されていました。韓国の有限責任会社は、アメリカのLimited Liability Company (LLC) と日本の合同会社を参考にしたものであったので、当時は、英米法系であって法体系が違うアメリカのLLCより、大陸法系という法体系が類似する日本の合同会社により興味を持ちまして、日本に留学することを選びました。

どんな留学生活でしたか?

留学生活は、すごく楽しかったですが、大変なこともありました。一番大変だったのは、やはり言葉の問題でした。日本語と韓国語は似ているところもありまして、最初に勉強する時は、楽にできました。ですが、後からは難しく感じる部分が多くなって大変な思いをしたこともありました。でも、大学院で一緒に勉強していた先輩、同期、後輩たちとの交流を通じて日本語の勉強も、日本文化についても多く知ることができましたので、楽しかったです。また、大学院で会った人々のおかげで、日韓・韓日通訳の機会を与えてもらい、大変だけどやりがいのある経験もいっぱいしました。大学院の生活の中では特に、夏の合宿で東京以外の地域にも行って、勉強を兼ねて旅行もできましたので、夏合宿のよい思い出がいっぱいあります。

研究者になったきっかけは?

私は大学に入ったときは、研究者という道は考えていませんでした。でも大学生活の中で、当時、会社法を担当していた先生を見て、私も先生の

ようになりたいと思い、そこから大学教員という道を考えることになりました。また、日本にきてからも幸運に恵まれてロールモデルとなる先生方の指導を受けることになって、私も先生方のような教員になりたいという考えがより強くなりました。それと、私は、子供の時から本を読むのが好きだったので、本をいっぱい読めるということで、研究を続けることが楽しかったです。

日本で研究を続ける理由を教えてください

私が研究しているものは、日本の合同会社ですが、合同会社についてはまだ歴史が浅いことで、よくアメリカのLLCと比較することになります。また、韓国の有限責任会社は合同会社よりも新しいものなので、合同会社とLLCとの比較検討は重要であるといえます。特に、各国の文化や状況などにより相違点を持つ法律についての研究は、他国との比較検討をすることが大事です。その点で、日本の合同会社について研究をすることによって、アメリカのLLCや韓国の有限責任会社の比較研究も続けられます。それで、日本現地での合同会社の研究を続けることが今後の私の研究においてももっとも重要だと思いましたので、日本での研究を続けています。

日本と韓国の研究・教育環境の違いはありますか?

日本と韓国の研究環境は、さほど異なることはありません。ですが、教育面においては、大学入試制度が違うこと(韓国は11月に大学修学能力試験が全国一斉に行われます。この試験の点数をもって志願可能な大学がおおよそ決まります)と、大学では、ゼミという制度を設けていないところが多いので、主にサークル活動が交友関係を広げる場となります。

留学を考えている学生へのメッセージをお願いします

今まで自分が住んでいたところから離れて、他の国に行って留学をするということは、勇気が必要なことです。その勇気を持つことが大変かもしれませんが、勇気をもって一歩進みますと、今までは経験できなかった新しい世界と逢うことになります。何もわからない白紙の状態で行ってもそこから色々なものを学ぶことができますし、留学先の知識を持ったまま行くことと更なる学びができるはずで、ぜひ、勇気をもってチャレンジしてください。そのチャレンジから得た経験と知識、友達は、皆さんにとって大切な財産になる貴重なものです。



大学院授業の夏合宿で午前中の論文報告が終わった後に、参加者の皆と鶴ヶ城を訪ねました。



毎年、早稲田大学周辺の神田川で桜の花見をしました。



夏合宿で行った石和温泉でのお食事会。



日本の先生方と一緒に韓国の済州島で行われた韓国企業法学会の国際学術大会に参加し、日韓・韓日の通訳の経験ができました。



大学院の同期と秩父に日帰り旅行に行って、いちご狩りを体験しました。



「世界と日本の未来を考える」開講

身近なSDGsから 新規事業を発想する

近年、高い注目を集めている「SDGs(持続可能な開発目標)」。高崎経済大学では、SDGsが目指す「誰一人取り残さない」社会を自分ごととして捉え、日常の意識や行動につなげることを狙いとして、2021年度から、経済学部・地域政策学部の両学部生を対象とした特別講義を開講しました。コロナ禍など、先の見えない「正解のない時代」を生き抜くための生きたリテラシーを獲得し、「未来」を起点として今やるべきことを考えます！



特別講義の4ステップ

経済・社会・環境などの地球規模課題や技術革新分野において活躍する方々が講義を行い、それをヒントに学生がチームで新規事業開発案を企画、プレゼン動画を制作。学生は、「知る」、「わかる」、「つくる」、「つたえる」の4ステップをととして、地球規模の課題を自分ごと化していきます。



1 知る
“SDGs”の目標やその達成状況、国際社会や各地域が抱える課題と企業の取組などの知識を得る。

2 わかる
講師への質問や学生同士で対話。獲得した知識への理解を深め、世界と自分とのつながりがわかる。

3 つくる
チームを組み、企業の立場から課題解決のための新規事業開発案を考え、プレゼン動画をつくる。

4 つたえる
SNSを利用しプレゼン動画を発信。より多くの人々に対して新規事業開発案を伝える。

全15コマの講師とテーマ

	講師名	テーマ
1	井澤 友郭 (NGOこども国連環境会議推進協会事務局長)	SDGsとは何か
2	井澤 友郭 藺田 綾子 (NPO法人サステナビリティ日本フォーラム事務局長)	SDGs×チームビルディング
3	国谷 裕子 (東京藝術大学理事、慶應義塾大学大学院特任教授)	2030年に向けて私たちにできること
4	澁澤 健 (シブサワ・アンド・カンパニー(株)代表取締役)	渋沢栄一の「論語と算盤」で未来を拓く
5	大崎 麻子 (NPO法人Gender Action Platform 理事)	なぜ、世界はジェンダー平等を目指すのか
6	湯浅 誠 (認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ理事長)	こども食堂と私たちの地域・社会
7	中井 徳太郎 (環境省環境事務次官)	気候危機とコロナ危機における日本のリデザイン
8	井澤 友郭 藺田 綾子	チームビルディング
9	宮井 真千子 (森永製菓(株)取締役常務執行役員)	食の力で世界を変える
10	飯塚 優子 (住友林業(株)サステナビリティ推進室長) 野口 圭 (日本電気(株)IMC本部 NEC Future Creation Hubセンター長)	森林の力で世界を変える デジタルの力で世界を変える
11	竹ヶ原 啓介 (株日本政策投資銀行設備投資研究所エグゼクティブフェロー)	社会課題の解決に「金融」を使う意味
12	井澤 友郭	課題解決に向けたリソース＝企業の決定
13	井澤 友郭	新規事業の開発～課題の深掘りとリソース活用～
14	須藤 あまね (聖心女子大学現代教養学部学生)	プレゼンシナリオの制作
15	井澤 友郭 藺田 綾子	全体リフレクション

知る/わかる

第7回講義

「気候危機とコロナ危機における日本のリデザイン」



直面する「気候危機」と「コロナ」など地球環境の危機に対応するためには、経済・社会システムや日常生活のあり方を大きく変えること、つまり、社会変革が求められています。①脱炭素社会への移行、②循環経済への移行、③分散型社会への移行という「3つの移行」により、経済社会をリデザイン(再設計)し、地域が自立し、支え合う関係となる地域循環共生圏(ローカルSDGs)を創造することが必要であるということ学びました。

つくる

第13回講義

「新規事業の開発～課題の深掘りとリソース活用～」



受講者は関心の強い社会課題ごとにチームを作り、①森永製菓(株)、②住友林業(株)、③日本電気(株)、④株日本政策投資銀行の4つの企業のうちいずれかの企業の立場に立って、社会課題を解決するための新規事業開発案を考え、これを伝えるためのプレゼン動画を作成します。新規事業を開発する過程を通じて、企業の可能性やリスクの理解を深めるとともに、新規事業開発案を伝える表現力などを獲得しました。

つたえる

第15回講義

「全体リフレクション」



社会課題を解決するための新規事業開発案としてまとめられた各チームのプレゼン動画を発信。講義の最終回では、リフレクション(振り返り)を行いました。個人やチームとしてうまくいったことや今後も続けていくこと、うまくいかなかったことや今後やめた方がよいことを整理したうえで、今後の様々な“実践”につなげていきます。



新規事業開発案としてまとめられたプレゼン動画は、大学公式Twitter(@tcue_PR)で掲載しています。



講師の声



日本電気(株)IMC本部
NEC Future Creation Hubセンター長
野口 圭氏

世界を変えるというのは、結果論です。何事も、小さい想い、小さな一歩から始まります。大切なのは、身近に存在する変化や違和感に気づくことです。そのためには、自分の感覚や感性を磨くことが重要です。ぜひ、自分の感性を信じ、大切な存在のために、見つけた課題をどうしたら解決できるのか考え抜き、一歩を踏み出してください。

学生の声



経済学部 経営学科3年
佐々木 花保さん

この講義は、学部・学年に関係なく履修することができる講義なので、ワークショップなどを通じて自分とはまた違った意見を聴けるのがとても新鮮です。また、毎回違う講師の講演を聴けるのも魅力の1つです。SDGsはとても身近なものであり、課題解決に向けて自分には何が出来るかを考え実行するための良い機会となりました。

鶴鷹祭

2021年の鶴鷹祭は中止となりました

第55期体育会本部 代表幹事
経済学部4年 田代洋平

鶴鷹祭とは、都留文科大学・高崎経済大学の総合体育対抗戦で、開催地は隔年交代で実施しています。昭和48年に山梨県の公立大学、都留文科大学の体育館落成記念として空手道部を中心とした対抗戦として始まった歴史のある大会となっております。徐々に参加団体が増え、第20回大会を機に都留と高崎の文字を「鶴」と「鷹」に置き換え、鶴鷹祭と命名されました。

第25回大会以降、それまで行われていたオープン戦が廃止され、鶴鷹祭は両校の名誉と威信をかけて行われる真剣勝負であるというコンセプトに移り変わってきました。両大学とも公立大学であり、有名私立大学のように運動に重点を置く大学ではありませんが、どの部活も総合優勝を目指し、日々の練習の成果を発揮して一生懸命戦います。

現在までの総合成績は都留文科大学24勝、高崎経済大学19勝、2引き分けとなっております。しかし、2016年に開催された第42回鶴鷹祭で高崎経済大学が総合優勝を果たし、まさに破竹の勢いで4連覇という功績を築き上げてきました。しかし、新型コロナウイルスの影響により、昨年度から2大会連続の中止を余儀なくされ、非常にやりきれない気持ちでいっぱいです。

伝統ある鶴鷹祭が、来年度こそ開催されることを切に願っております。



2021年 鶴鷹祭 & 三扇祭 結果報告



パワーアップした 2度目のオンライン開催

第64回三扇祭実行委員会 委員長
地域政策学部3年 長濱誠弥

2021年の三扇祭も昨年に引き続き、新型コロナウイルスの影響により10月30日と31日の二日間YouTubeライブで配信を行い、11月7日までの間はアーカイブでの視聴期間としました。

第64回三扇祭のテーマは「BREAK!!!」です。このテーマには新型コロナウイルスの影響による憂鬱な気分を壊してほしい、三扇祭がみんなのリフレッシュできる休憩の場となってほしい、三扇祭に参加したすべての人が元気になるきっかけになってほしい、という3つのテーマが込められています。

当初対面での開催を予定しておりましたが、

度重なる感染拡大の影響を考慮し2年連続のオンライン開催とさせていただきました。苦渋の決断となりましたが、日頃の学生の活動を発信する場として、また、このコロナ禍において笑顔をお届けしたいという思いで、オンラインでの開催を決定いたしました。

昨年のノウハウを生かした企画づくり、そして昨年よりもパワーアップした三扇祭をお届けするために、会場である731教室には学生限定の観覧席を設け、また医療従事者への感謝と新型コロナウイルスの収束を願い花火の打ち上げを行いました。昨年同様多くの視聴者の方に加え、配信以外でも多くの方楽しんでいただくことができました。

最後になりますが、三扇祭の開催にご尽力いただいた皆さま、ご視聴いただいた全国の皆さま本当にありがとうございました。来年以降のさらに成長した三扇祭にご期待ください。



三扇祭

たがけい INFORMATION

大学事務局からのお知らせ

大学発ベンチャー第1号 “FUTURENAUT(株)”を認定

本学で得られた教育研究成果等を活用し、先進的な教育研究成果等を迅速に社会に還元することを目的として、教員・学生が設立者等として起業した企業を、“大学発ベンチャー”に認定し、施設貸与などの支援を行っています。この度、第1号としてFUTURENAUT(株)を認定しました。FUTURENAUT(株)は、本学地域政策研究科2年の櫻井蓮さんが代表取締役を務め、昆虫由来食品の市場を創造し、環境問題や食糧危機のリスク低減に貢献しています。



左から水口学長、櫻井蓮さん、地域政策学部 飯島教授



ココロギパウダー配合のゴーフレット

“ラジオゼミナール” 開講中

毎週金曜日午前9時30分から44分の時間に、ラジオ高崎【FM76.2Hz】から「ラジオゼミナール」という番組をお届けしています。本学の教員が、研究分野のトピックス、世の中の話題に対する専門家の視点などについて、分かりやすくお話をするプログラムです。ラジオアプリからは現在の放送を、大学のホームページでは前年度の放送を聴くことができます。2021年度に放送されたテーマは、「会計学」、「都市・地域経済学」、「教育心理学」、「都市農村交流」などです。多彩な内容をぜひお楽しみください。

視聴方法、今後の放送予定、過去の放送音源はこちら

■ 問合せ先 / 知の拠点化推進室
027-344-6244 (kenkyushien@tcue.ac.jp)



新理事長就任

前理事長 高木賢が病気療養のため2021年12月31日を以て理事長を退任し、2022年1月1日より市川豊行が新理事長に就任しました。任期は、2023年3月31日までとなります。

学内でできる国際交流 “English Café”

まだまだかつてのような留学が再開できる見通しは立ちませんが、学生の皆さんに英語を实践する場、異文化体験の場、留学へのステップの場、そして英語を学ぶという共通の目的を持った学生たちの集いの場として、「English Café」を開講しています。希望者は、講師と1対1で会話できる「プライベートレッスン」を受講することもできます！曜日ごとに異なるネイティブ講師が、学生の皆さんの参加をお待ちしています。

※2019年の様子



開設日程等はこちら(4月以降にお知らせします)

■ 問合せ先 / 教育グループ国際交流支援チーム
027-344-7895 (international-c@tcue.ac.jp)



学生が運営するcafe あすなろ営業中

本学の学生が中心となって運営しているcafe あすなろ。新型コロナウイルスに負けず、元気に営業しています。



定期健康診断は必ず受診を

学校保健安全法に基づき、全学生を対象に、4月に定期健康診断を実施します。詳しい日程や予約方法などは、3月中旬頃にポータルサイトのほかホームページでお知らせします。健康診断の結果は、就職活動・実習・大会参加・留学関係・アルバイト関係等、様々な場面で必要となりますので、必ず受診してください。

詳細はこちら(3月中旬頃にお知らせします)

■ 問合せ先 / 保健室 027-343-5418 (hoken@tcue.ac.jp)
学生サポートルーム 027-344-7502 (supportroom@tcue.ac.jp)



全国各地の郷土資料を収蔵

図書館では、全国の郷土資料を収蔵しています。郷土関係者の著作物や郷土で発行された行政・産業資料などを各地から収集し、都道府県別に配架しています。全国から学生が集まる高崎経済大学ならではの特徴です。ぜひ、地元の郷土資料をとおして、その土地の歴史や文化に触れてみてはいかがでしょうか。

※図書館が利用できる方：本学卒業生、学生、教職員、群馬県内在勤・在住の一般社会人、県内他大学の学生



■ 問合せ先／研究グループ図書館チーム
027-344-6266 (tosyokan@tcue.ac.jp)

同窓会からのお知らせ

支部総会の開催について

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各地で多くの支部総会が開催中止を余儀なくされました。来年度の開催については、感染状況等を考慮して検討していきますので、詳細が決まりましたら同窓会ホームページでお知らせいたします。

同窓会支部一覧

札幌支部	福井支部	三重支部
旭川支部	群馬支部	関西支部
オホーツク支部	太田支部	京滋支部
青森支部	桐生支部	広島支部
岩手支部	栃木支部	香川支部
宮城支部	東京支部	徳島支部
福島支部	静岡支部	高知支部
新潟支部	長野支部	愛媛支部
富山支部	飯田支部	大分支部
石川支部	東海支部	鹿児島支部

同窓会に関する情報はこちら



■ 問合せ先／同窓会事務局(学生支援チーム)027-329-6693

後援会からのお知らせ

令和3年度活動のトピックス

「オンライン大学現況説明会」を開催

コロナ禍において、昨年度に続き支部総会が開催できませんでしたので、オンラインによる大学現況説明会を9月4日(土)に開催しました。当日は「大学の現況」・「学生生活」・「学生の就職」をテーマに報告後、保護者からの質問にお答えし終了しました。

新入生へ「学生応援チケット」を配布

コロナ禍における学生の生活支援を行うため、生協での食事の際に利用できる「学生応援チケット」(1人4,000円分)を、新入生を対象に配布しました。

保護者の皆さんへ「就職情報の提供」

「学生の就職」について、毎年、3年次生の保護者へ配布している「保護者版・就職ハンドブック」の「ダイジェスト版」を作成し、2年次生の保護者へ配布しました。昨今の学生の就職事情を紹介していますので、ご一読ください。

大学への寄附

新型コロナウイルスなどの感染防止対策のため、「高圧蒸気滅菌器」を大学に寄贈しました。この器械は学生達を感染症から守るため、学生の健康診断の際の検査器具や保健室での治療器具の滅菌に利用されます。

「就学支援金支給制度」を新設

学費負担者の死亡等による家計急変や自然災害、火災等の被災により、就学を継続するための支援が必要な学生に対し、公的機関等による支援が措置されるまでの間の就学継続等を目的に就学支援金を支給する制度です。詳細はホームページにてご確認ください。

TOEIC及び外国語検定試験成績優秀者表彰

TOEIC公開テストで700点以上を獲得した学生及び外国語検定試験(ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、ハングル及びイタリア語)を受験して優秀な成績を収めた学生に表彰状と記念品を贈呈します。

高経会館の利用について

大学から徒歩5分に立地する宿泊・研修施設です。宿泊室は全て個室となっており、学生だけではなく、保護者や同窓生もご利用いただけます。宿泊予約する場合は下記後援会事務局まで電話にてお申込みください。

令和4年度の支部総会について

新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和3年度の支部総会はずべて中止しましたが、令和4年度の支部総会の開催については、新型コロナウイルスの感染状況等を考慮の上、7月中旬頃にホームページ及び保護者宛の通知にてお知らせする予定です。

■ 問合せ先／後援会事務局027-344-7902

